

和地ひとみレポート No.269



東大和市議会平成30年第1回定例会 一般質問 “食育について” 新学校給食センターを活用して、しっかりと食育を

■第1回市議会定例会 一般質問

…平成30年第1回市議会定例会で、私は以下のテーマについて一般質問で取り上げました。

■食育について

- ① 東大和市の「食育」の取組方針は
- ② 現状について
⇒各学校の取り組みは
⇒学校以外の取り組みは
- ③ 新学校給食センター稼働によって変化したことは
- ④ 食育を充実することによる効果についての認識は
- ⑤ 課題と今後の対応について

■緑のまちづくりについて

- ① “緑のまちづくり”について、市が策定している関連する計画などには、どのようなものがあるか。また、それらに関連する市の内部の部課や他の組織にはどのようなものがあり、それらの協力体制の現状は。
- ② 緑のまちづくりを推進することで得られる効果についての認識は。
- ③ 目標に対する課題と対応について

…「食育」という言葉は、明治期に活躍した食養医学の祖とされる石塚左玄と小説家の村井弦齋が使い始めたとされていますが、現在のように「食育」という言葉が当然のように認識されるようになったのは、食育基本法が平成17年6月に制定されたころからではないでしょうか。

…また、農林水産省が平成29年3月に実施した「食育に関する意識調査」では、食育に『関心がある』と回答した人の割合が79.6%にもものぼり、その理由については「生活習慣病（がん、糖尿病等）の増加が問題になっているから」「食生活の乱れが問題になっているから」「子供の心身の健全な発育のために必要だから」「大量の食べ残しなど食品廃棄物が問題だから」といったことが挙げられています。

…人生100年時代を見据えている今、健康寿命の延伸、医療費・介護費の抑制といった健康面で『食』が重要であることはもとより、グローバル化する社会の中で、『食』を通して日本の文化を知ることや、『食』を通して人と交流し、社会や世界を知ることの重要性も高まっています。このような状況において、市議会でも複数の議員が過去「食育」について、一般質問で取り上げており、また、東大和市では、30億円以上の費用をかけて新学校給食センターを建設したばかりで、学校における食育の充実には大きな期待が寄せられている状況です。

…しかし、先日のこのレポートでも取り上げたように、毎年、発行される「東大和市教育委員会の権限に属する事務の管理執行状況の点検及び評価」の報告書の内容からは、学校における食育について充足しているのかどうかの実態が伝わってこない状況です。…「食習慣」という言葉もあるとおり、小中学校という時期は、『食』に対する正しい知識や習慣を身につけるうえで大切な時期の一つでもあるため、今回、私は、当市の学校における食育の取り組みについて確認しました。

■東大和市の食育の目標は

…まず、最初に東大和市の学校における食育の目標について確認。その答弁は「東大和市における食育についての到達目標については、小学生では『食に関心を持ち、正しい知識に基づいた食行動をすること』、中学生では『食の自己管理能力を高め、望ましい食習慣を身につけること』としている。各小中学校では、これらの到達目標達成に向けて、給食の時間のみならず、各教科・領域の学習とも関連させながら取り組んでいるところだ。」との市長答弁がありました。

…さらに、教育長からは「各小中学校では、児童・生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう、年間を通じて食に関する指導を行っている。具体的な取組内容は、給食の時間に食事のマナーや栄養のバランスについて指導したり、各教科・領域の学習内容と関連付けながら、心身の健康に関する内容に加えて自然の恩恵・勤労などへの感謝や食文化などについても指導したりしている。学校以外の取り組みとしては、給食センターで食育推進のための放送資料を作成し、全校で放送や掲示等を行うとともに、給食センター栄養士が学校を訪問し、給食献立を教材とした食育の推進等を図っている。また、PTA保護者の方を対象とした見学試食会を実施し、家庭での食育の推進を図っているところだ。」との答弁もありました。

…市長答弁で示された小学生、中学生の東大和市の食育の目標は学校教育部ではなく、福祉部健康課が作成している「東大和市 食育ガイドライン」に明記されている年齢別食育の考え方と到達目標です。このガイドラインには「食育ガイドラインの活用」として、市内の家庭、保育園、幼稚園、小学校、中学校及び地域の子どもを対象とする施設や団体が共通認識の下に、各年齢に応じた食育を推進すると書かれています。しかし、具体的にどのように活用されているのか分からないため、確認したところ「小中学校では、このガイドラインを活用し、食育の全体計画及び年間指導計画を作成している。」とのことでした。（裏面に続く）

■食育の年間指導計画は形骸化？

…食育は、学校での指導だけではなく、家庭との連携も必要です。そのうえで、学校でどのような食育が実施されているのかを公表することは必要。しかし、食育の年間指導計画は、学校内で使われているだけで、どこにも公表はされていません。このことについて尋ねると「新しい学習指導要領では、社会に開かれた教育課程が求められており、今後は、保護者、地域と一層連携を図るために、公開する必要性も大きくなると認識している。」とのことでした。また、この年間計画の実施内容についての検証はどのように行っているのかについては「各校において食育担当の教員を中心に、学校全体で評価・改善を行っている。例えば、今年度に改善された小学校の内容としては、給食の残菜を減らすための取組を工夫して行っているものなどがある。」とのことでした。そして、学校ごとに評価改善された食育の全体計画、年間指導計画は、市の教育指導課に毎年提出してもらっているとのことでしたが、その到達具合などの検証は、特に実施していないとのことでした。

■大人の事情？で学校ごとに格差

…学校における食育では、給食を“生きた教材”として行われることが多いとのこと。そのため、各教科で食育に関する項目はあるものの（例えば、理科で野菜の育ち方などを指導することも、食育の要素があるとされているなど）、実際には給食の時間を共にする学級担任の先生が食育を担うことが多くなるとのこと。一方で、教育長の答弁でもあったように学校給食センターに所属する栄養士が学校を訪れ、担任の先生と連携して食育にあたることもあるとのこと。しかし、前述の「東大和市教育委員会の権限に属する事務の管理執行状況の点検及び評価」の報告書では、各学校で実施された栄養士の指導回数については学校ごとで大きな差があります。そこで、市のHPで閲覧できるこの報告書から、過去10年（H19～H28）の各校の実施回数を示し、現状を確認しました。

◆小学校で実施された栄養士による指導回数

	一 小	二 小	三 小	四 小	五 小	六 小	七 小	八 小	九 小	十 小
回数	145	11	12	9	17	30	8	251	32	169

◆中学校で実施された栄養士による指導回数

	一 中	二 中	三 中	四 中	五 中
回数	0	0	2	3	0

…給食センターの栄養士が学校を訪問して給食を実施することについては「栄養士との連携を年間計画に入れている学校は“多く”ある。」との答弁でした。また、この回数のバラつきについての認識と原因を確認したところ「バラつきがあることは課題であると考えている。バラつきの原因は、栄養士の退職や栄養教諭の体調不良、他市での食物アレルギー事故の発生等

により、学校での食育への対応が困難となり、生じてしまったものだ。市でも平成29年度から独自に栄養士を配置するなどの対応を行ったが、新学校給食センターの稼働など繁忙であった事から、学校から依頼があってもお断りする事例もあった。新学校給食センターが稼働して1年を迎え、安定が見込めるので積極的に対応してまいりたい。」とのことでした。

…この答弁で挙げられたバラつきの理由は、全て“大人の事情”。それも10年もの間、改善もなく放置されていた感が否めません。どのような状況であっても、年間で計画されている食育を子ども達のために実施することから、まずは取り組むべきだと提言させていただきました。

■“人”につけず、市がリードして

…昔の学習指導要領の中では給食は学校行事として扱われていました。しかし現在の指導要領では、給食は特別活動として「学級活動」の『適応と成長及び健康安全』の中で「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」と明記されており、学校給食における食育の重要性が明確に示されています。しかし、給食の時間は標準授業時数に含まれないため、とすれば教育課程に位置付けられた教育活動ではないかのように受け取りがちで、単に食事を提供すればよいと誤解されるおそれがあるともいわれています。東大和市でも学校での食育については、乱暴な言い方をすれば「担任まかせ」となっている感がありますが、これでは、各教員の「食環境」の経験、興味関心に左右される可能性が高まります。

…実際、教職課程でも「食育」に対する教科もない、指導書もない中、担任の先生に全てを背負わせるのも難しいことだと思います。自治体によっては、食育の教科書や指導書を独自に作成しているところも。この点についての考えを確認したところ「指導する学級担任の意識を高めるための取組を工夫しなければ、形骸化してしまうことも懸念される。食育を学校全体で行っていくためには、指導書や教科書のようなものの必要性があるものと認識している。今後、手引き等の作成については、研究していく。」との答弁でした。

…また、現在は様々な食に関する企業が、食育の出前講座も行っています。東大和市内の学校でもそのような講座を活用しているところもあるようですが、今後は、指導室がこのような講座の紹介も学校にしていけるべき。さらに、新学校給食センター稼働後は、今まで作れなかったメニューも提供しているとのこと。杉並区ではクックパッドというサイトで給食レシピを公開していますが、そこまでせずとも給食のメニューやレシピを市のHPに掲載し、保護者の方も「子ども達が昼食に何を食べたか」などを手軽に閲覧できるようにし、家庭との連携も図れるような工夫もしてほしいと思います。

…新学校給食センター建設は大事業でしたが、市議会も「子ども達のために」と賛成しました。今後は「東大和市の学校では“ここまで”は食育で必ず指導される」というものを持って取り組んでほしいと伝えました。



市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。
「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102